

2023年3月期 中間決算説明資料

フクシマガリレイ株式会社



ガリレオは、
世界を変えた。
ガリレイは、
暮らしを変える。

産地と食卓を結ぶ“食のライフライン”に、
イノベーションを。

A young child with light brown hair, wearing a blue and orange striped shirt, is sitting in a green shopping cart. The child is looking towards the left, where shelves of fresh produce are visible. The shelves are stocked with various fruits and vegetables, including green grapes, orange slices, and yellow fruit. The background shows more shelves and a bright, well-lit supermarket environment.

いつでもどこでも 食の安全・安心を

私たちは「食」に関わるビジネスに携わるものとして、安全・安心な食の提供を何よりも優先し、すべての人の豊かな食生活の実現に貢献していく。これまで培ってきた「安全・安心技術」を、日本はもとより世界へ広くお届けしていく。「食」を通じて社会を明るく元気にすることが私たちの使命である。（食の安全・安心）

フクシマガリレイ株式会社

FUKUSHIMA GALILEI CO.LTD.

設立:1951（昭和26）年12月8日

本社:大阪府大阪市西淀川区竹島2-6-18

代表者：代表取締役 社長執行役員 福島 豪

資本金:27億6千万円

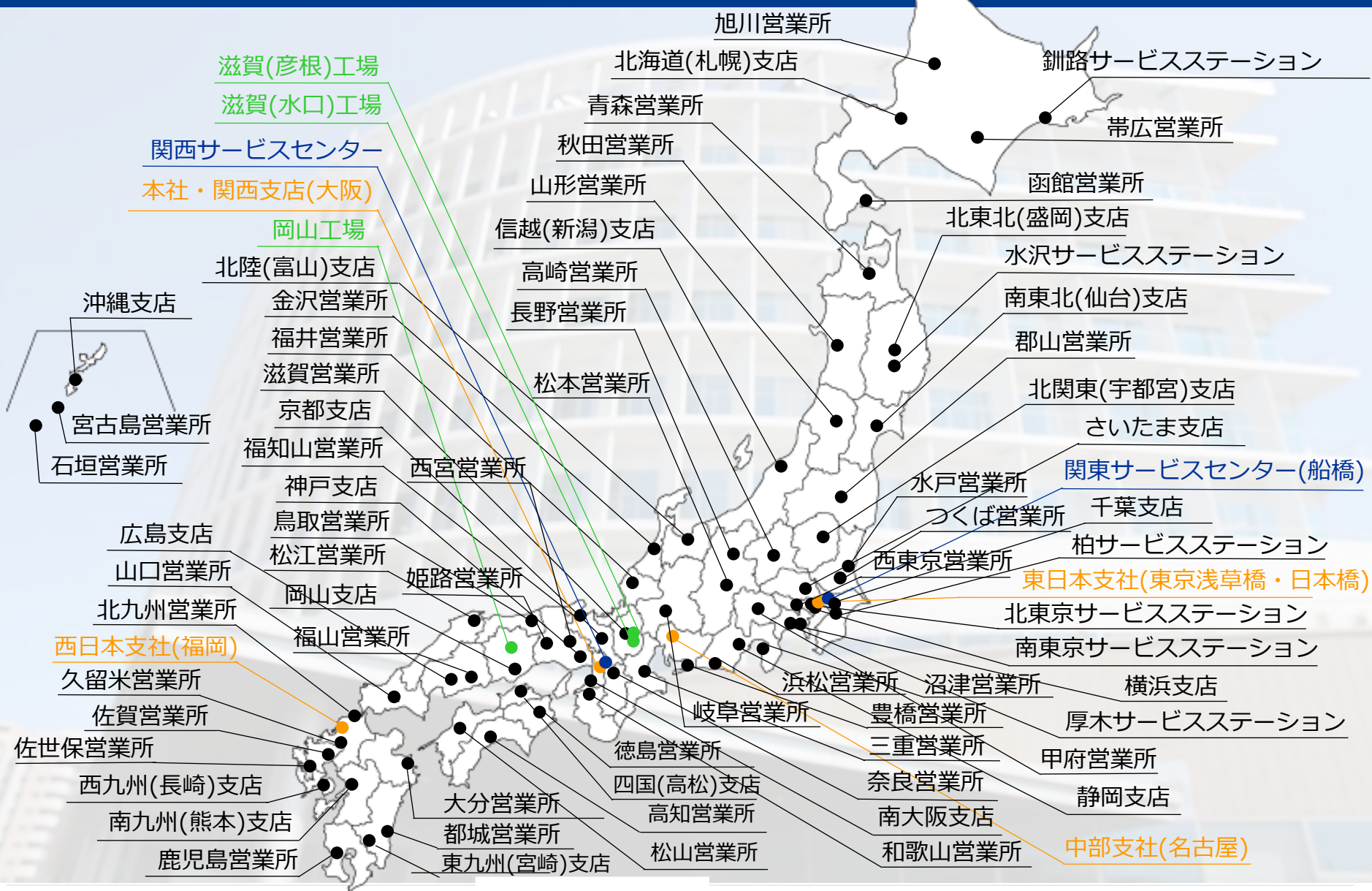
従業員:2218名（2022年3月末現在） 準社員込

連結売上高：960億7千3百万円（2022年3月期）

連結経常利益：112億6千5百万円（2022年3月期）

上場：東証プライム市場

フクシマガリレイのネットワーク



フクシマガリレイのネットワーク

11か国
12拠点



事業の概要



**冷凍冷蔵
ショーケース販売**



冷凍冷蔵庫販売



**医療・理化学
製品販売**

環境・安全・安心をテーマに
「幸せ創造企業」を目指します



**大型食品
加工機械販売**



**大型パネル
冷蔵設備販売**



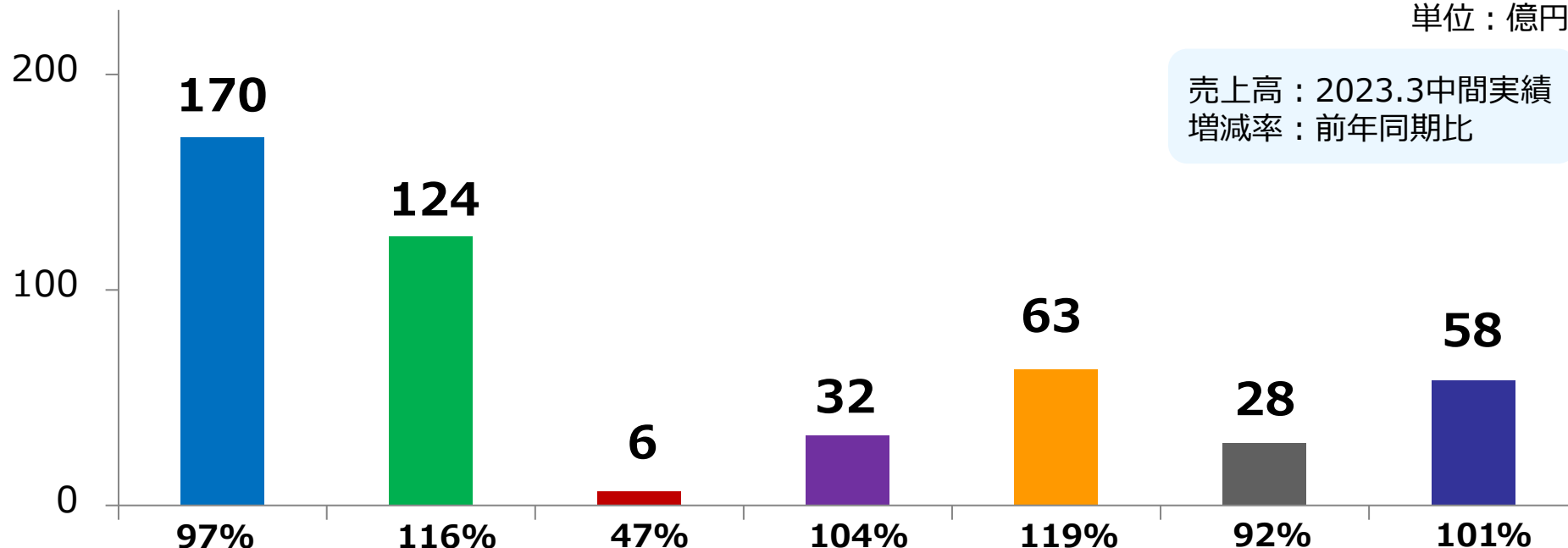
**小型パネル
冷蔵設備販売**



サービス販売

事業の概要

単位：億円



売上高：2023.3中間実績
増減率：前年同期比

冷凍冷蔵 ショーケース 販売	冷凍冷蔵庫 販売	医療・理化学 製品販売	大型食品 加工機械 販売	大型パネル 冷蔵設備 販売	小型パネル 冷蔵設備 販売	サービス 販売
・オープンショーケース ・リーチインショーケース ・RO水機器 ・ショーケース設備工事	・汎用業務用冷凍冷蔵庫 ・製氷機 ・玄米保冷库 ・ブラストチラー ・厨房設備工事	・薬用保冷库 ・低温インキュベーター ・メディカルフリーザー ・超低温フリーザー	・トンネルフリーザー ・食品工場の自動化設備	・大型パネル設備工事 ・大型プレハブパネル	・小型パネル設備工事 ・小型プレハブパネル	・冷凍冷蔵庫、冷凍冷蔵ショーケース、トンネルフリーザーのメンテナンス

事業の概要

業績推移（連結）

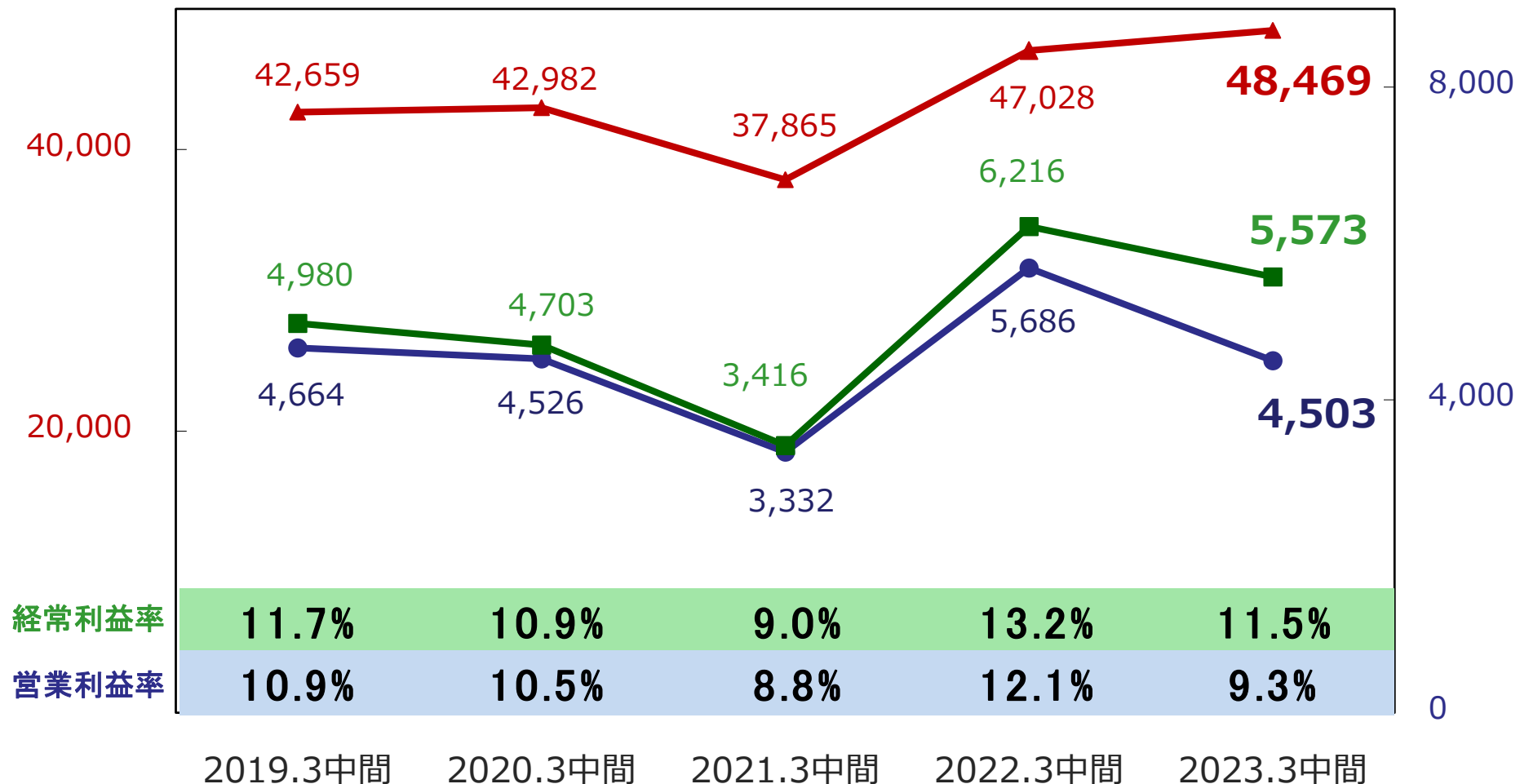
▲売上高

●営業利益

■経常利益

売上高（百万円）

営業利益（百万円）



2023年3月期中間決算のポイント

売上高

- ・ 冷凍冷蔵庫事業は、外食産業のテイクアウト需要が継続し、ブラストチラーや冷凍冷蔵ロッカーなど、高付加価値製品の売上増
- ・ 大型食品加工機械は、大手食品メーカーを中心に設備投資が継続
- ・ 大型冷蔵パネルは、食品工場や物流拠点への設備投資が活発
- ・ 冷凍冷蔵ショーケース事業は、コンビニエンスストア向けの自然冷媒を採用したショーケースが引き続き好調だが、ドラッグストア向けの販売は減少
- ・ 小型冷蔵パネルは、スーパーマーケット改装需要に伴った受注が減少
- ・ 医療理化学は、コロナ特需の剥落、再生医療関連案件減により減少

利益

- ・ 原材料の高騰による営業利益圧迫が継続するも、少しずつ値上げが浸透していることで回復基調

2023年3月期中間業績概要

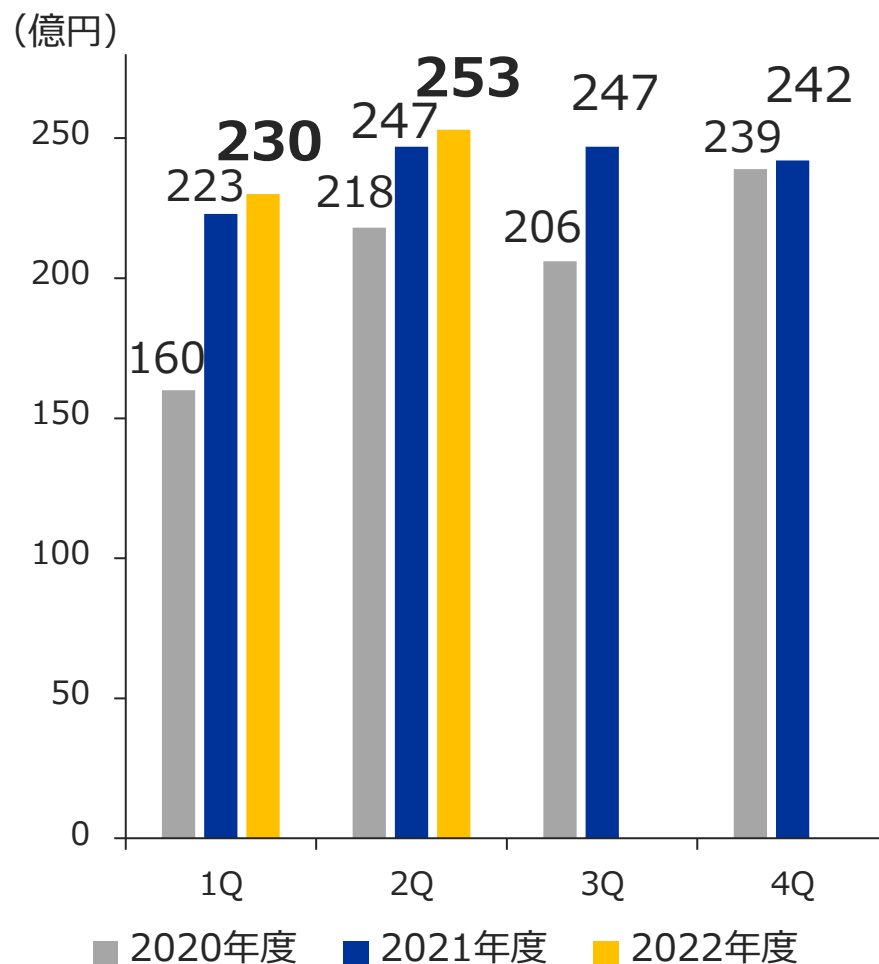
連結損益計算書サマリー

単位：百万円

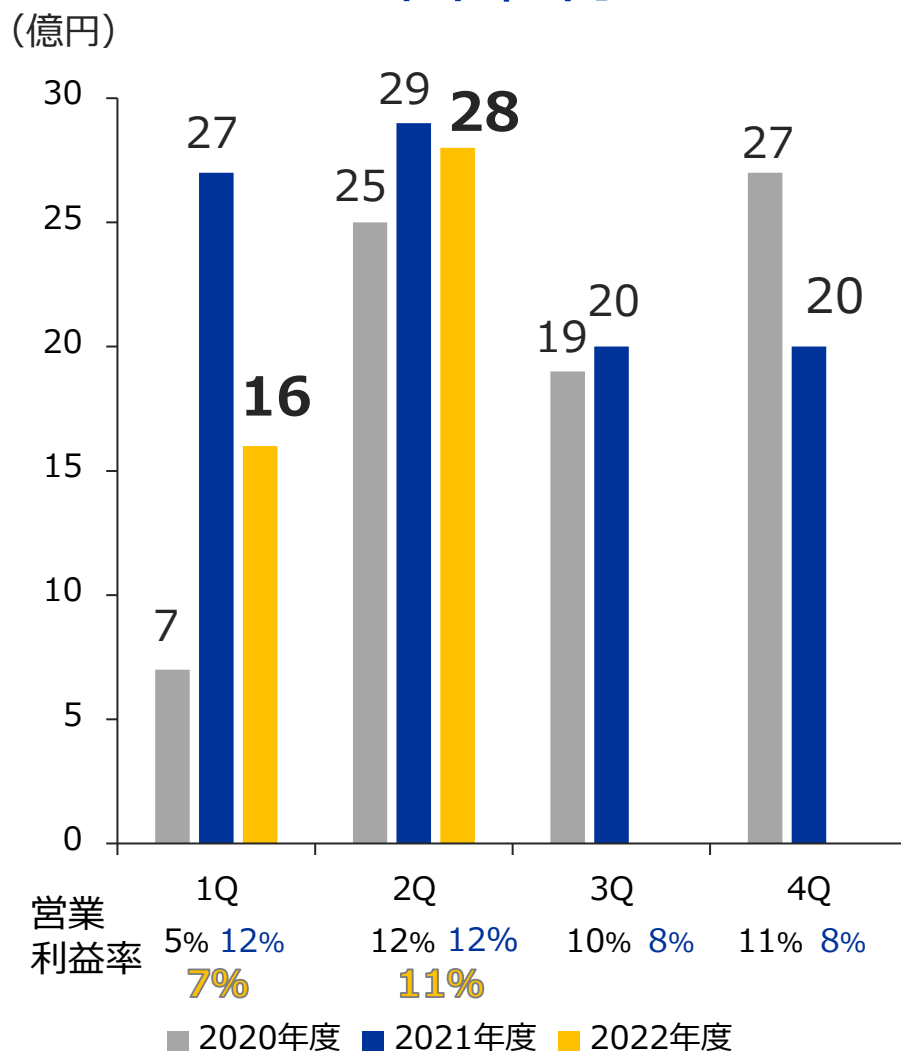
	2021年 3月期中間	2022年 3月期中間	2023年 3月期中間	前々年比	前年比
売上高	37,865	47,028	48,469	128.0%	103.1%
売上原価	27,920	34,256	36,273	129.9%	105.9%
売上総利益	9,944	12,772	12,196	122.6%	95.5%
販売費及び 一般管理費	6,612	7,086	7,693	116.3%	108.6%
営業利益	3,332	5,686	4,503	116.3%	79.2%
経常利益	3,416	6,216	5,573	135.1%	99.7%
親会社株主に帰 属する 当期純利益	2,227	4,348	3,884	174.4%	89.3%

2023年3月期業績概要（四半期比較）

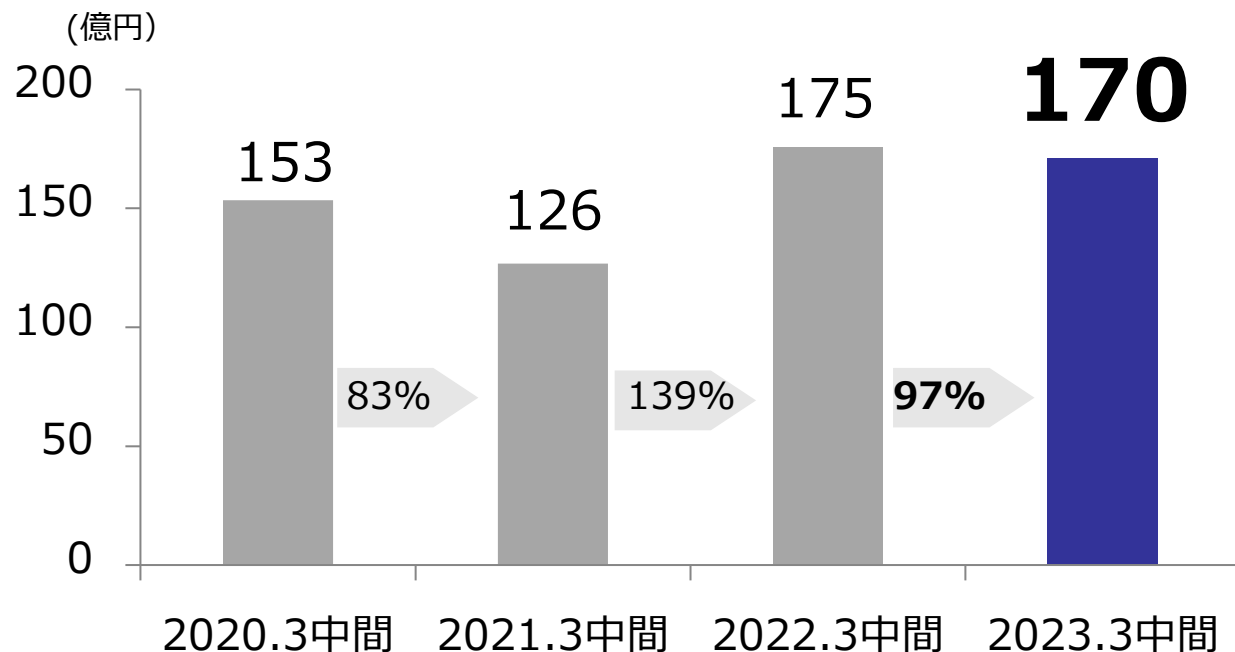
売上高



営業利益



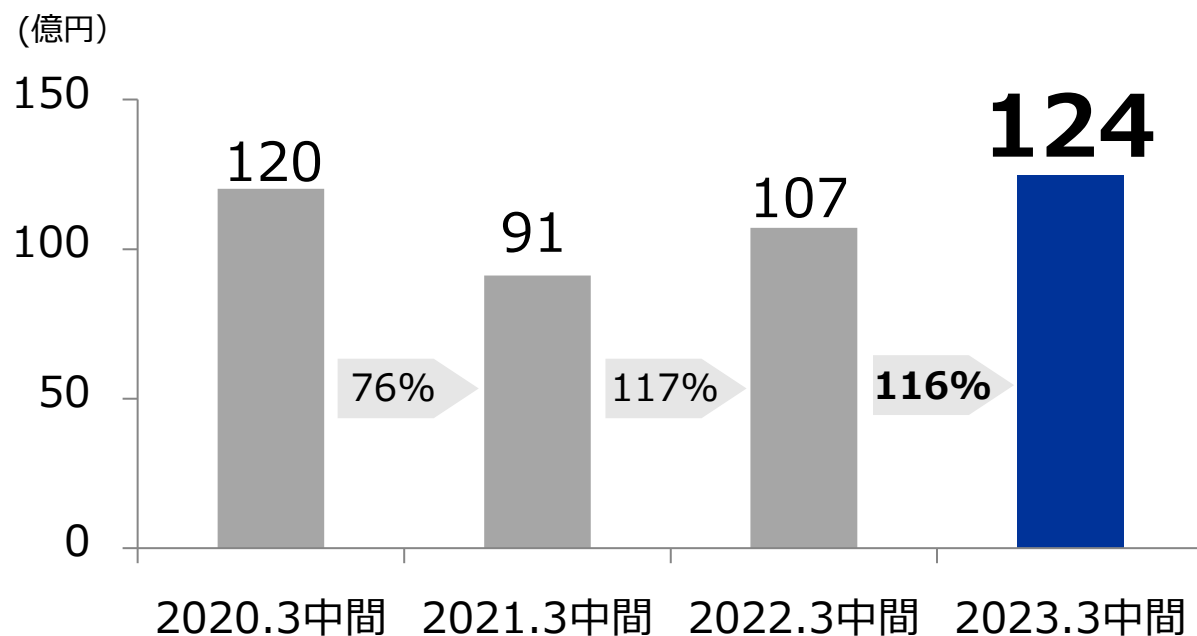
冷凍冷蔵ショーケース販売売上高推移



冷凍冷蔵ショーケース販売 売上減の要因

- ・ コンビニエンスストア向けの自然冷媒を採用したショーケース販売は引き続き堅調
- ・ ドラッグストア向けの販売が減少

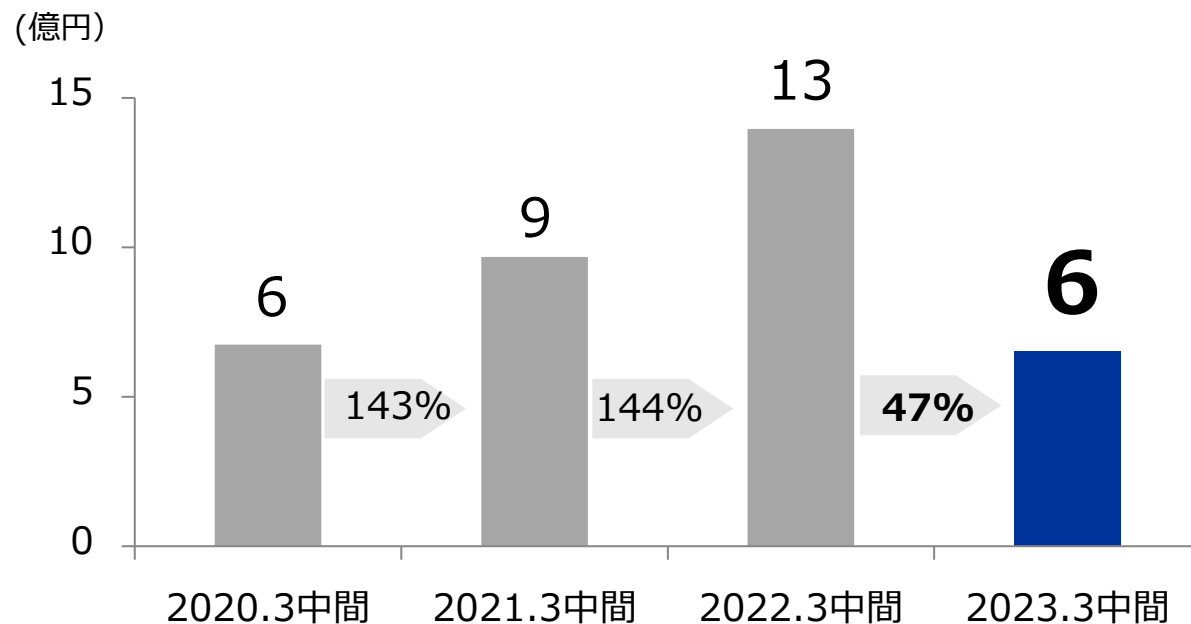
冷凍冷蔵庫販売売上高推移



冷凍冷蔵庫販売 売上増の要因

- ・ 店舗での食品加工やテイクアウト需要が継続しており、ブラストチラーや冷凍冷蔵ロッカーなどの高付加価値製品の売上が増加
- ・ 汎用冷凍冷蔵庫も飲食店及び宿泊施設向けの販売が増加

医療・理化学製品販売売上高推移

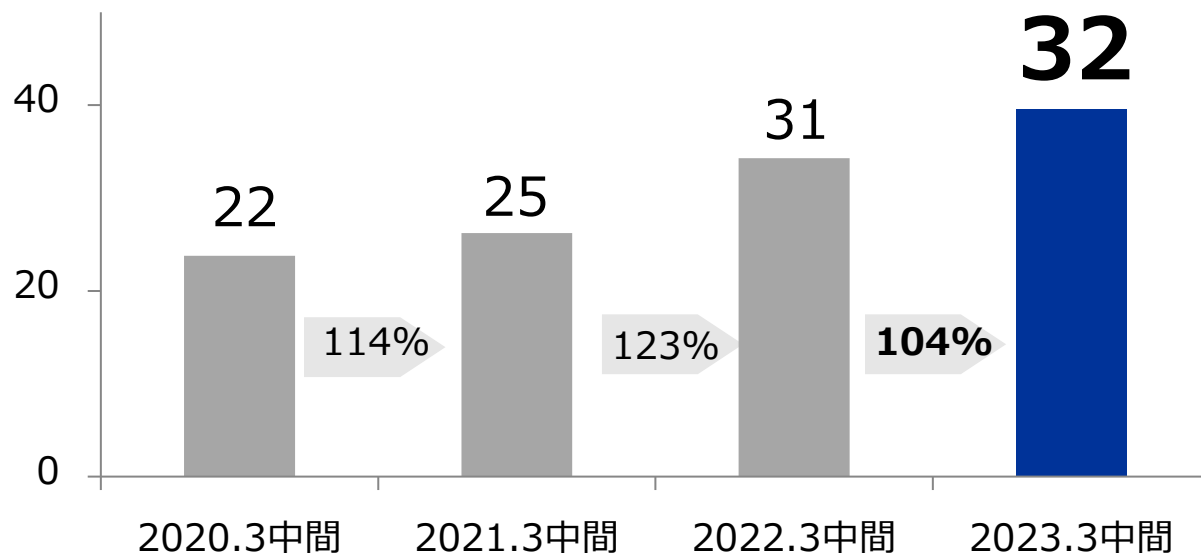


医療・理化学製品販売 売上減の要因

- ・ 病院・クリニック向けの販売が、前年度の新型コロナウイルス感染症の関連需要の剥落により減少
- ・ 再生医療等の研究施設向けの販売も減少

大型食品加工機械販売売上高推移

(億円)



大型食品加工機械販売 売上増の要因

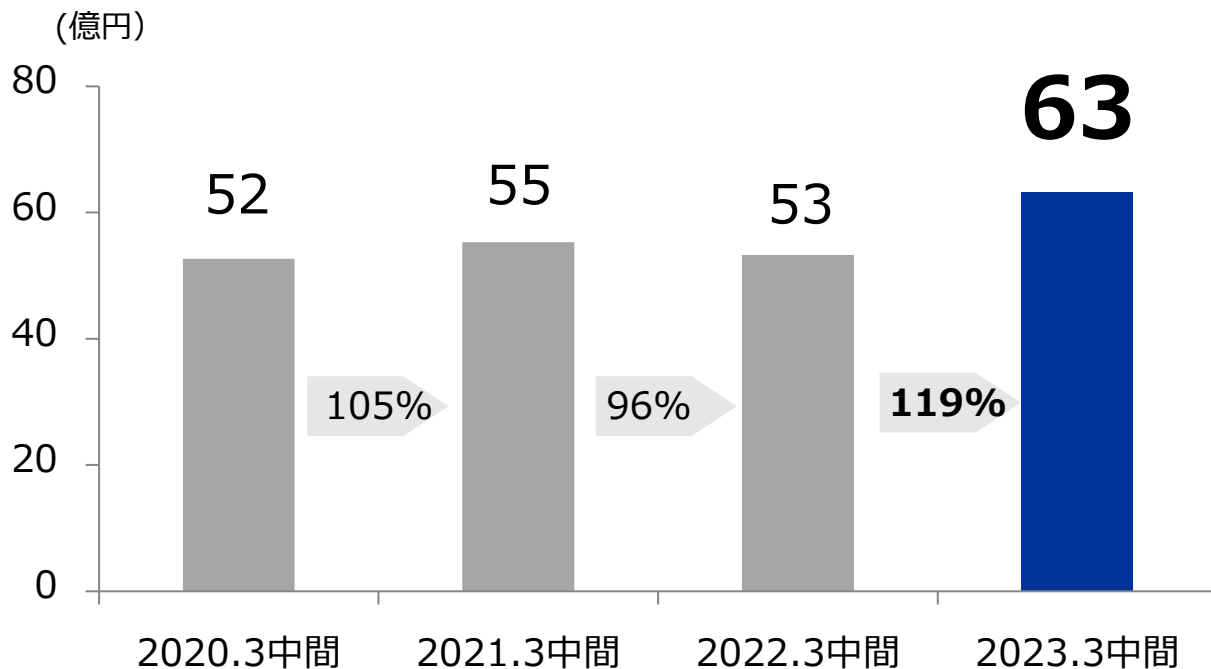
トンネルフリーザー

- ・引き続き大手食品メーカーを中心に設備投資が継続し売上増加

ラインシステム・コンベヤ

- ・冷凍弁当や麺ラインなどの大型案件が増加

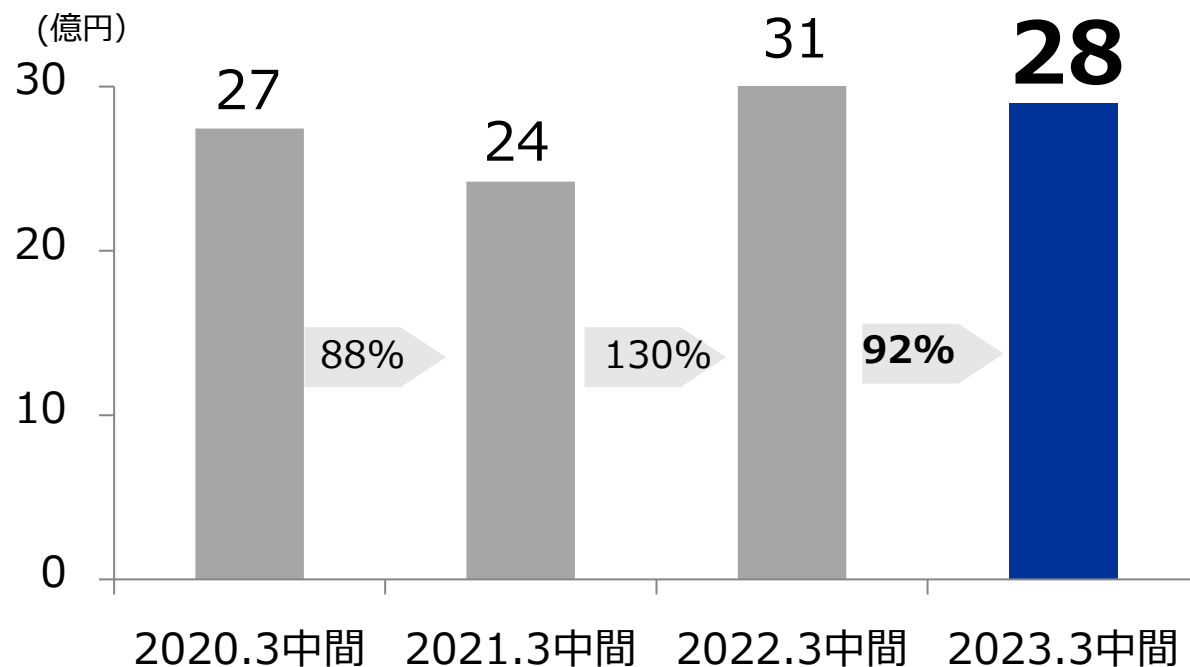
大型パネル冷蔵設備販売売上高推移



大型パネル冷蔵設備販売 売上増の要因

- ・ プロセスセンターや食品工場など、EC拡大を背景にした物流拠点への設備投資が活発

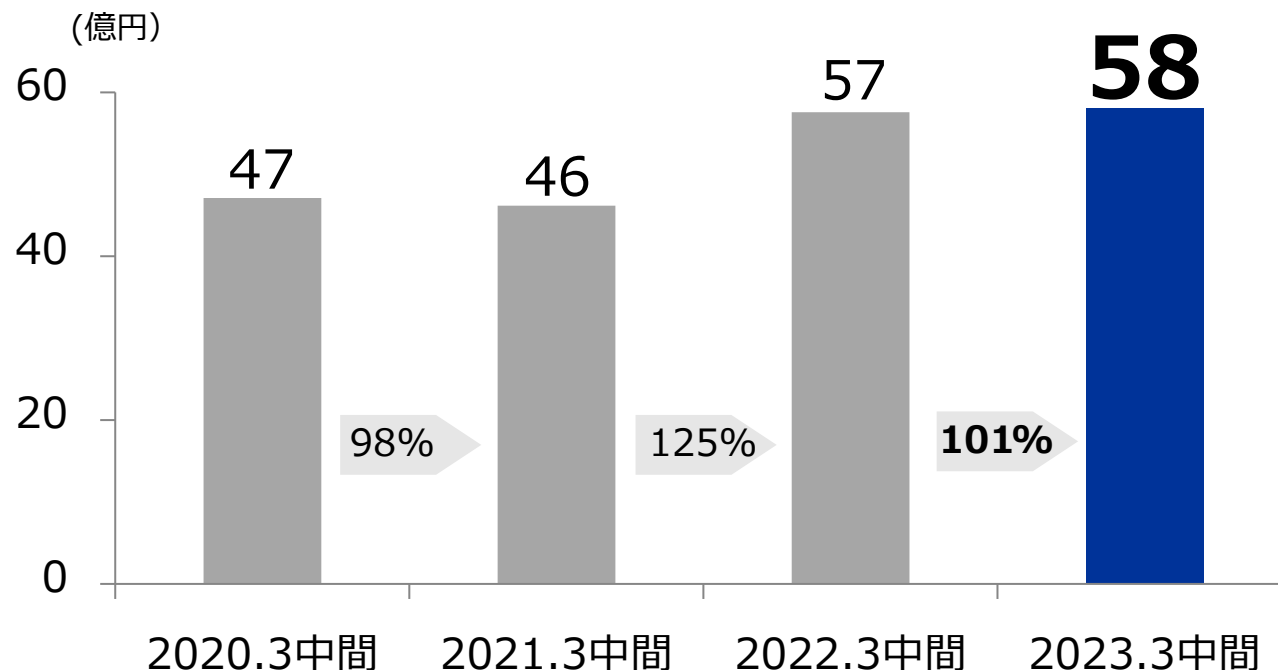
小型パネル冷蔵設備販売売上高推移



小型パネル冷蔵設備販売 売上増の要因

- ・スーパーマーケットにおいて
店舗の改装需要に伴った受注が減少

サービス販売売上高推移



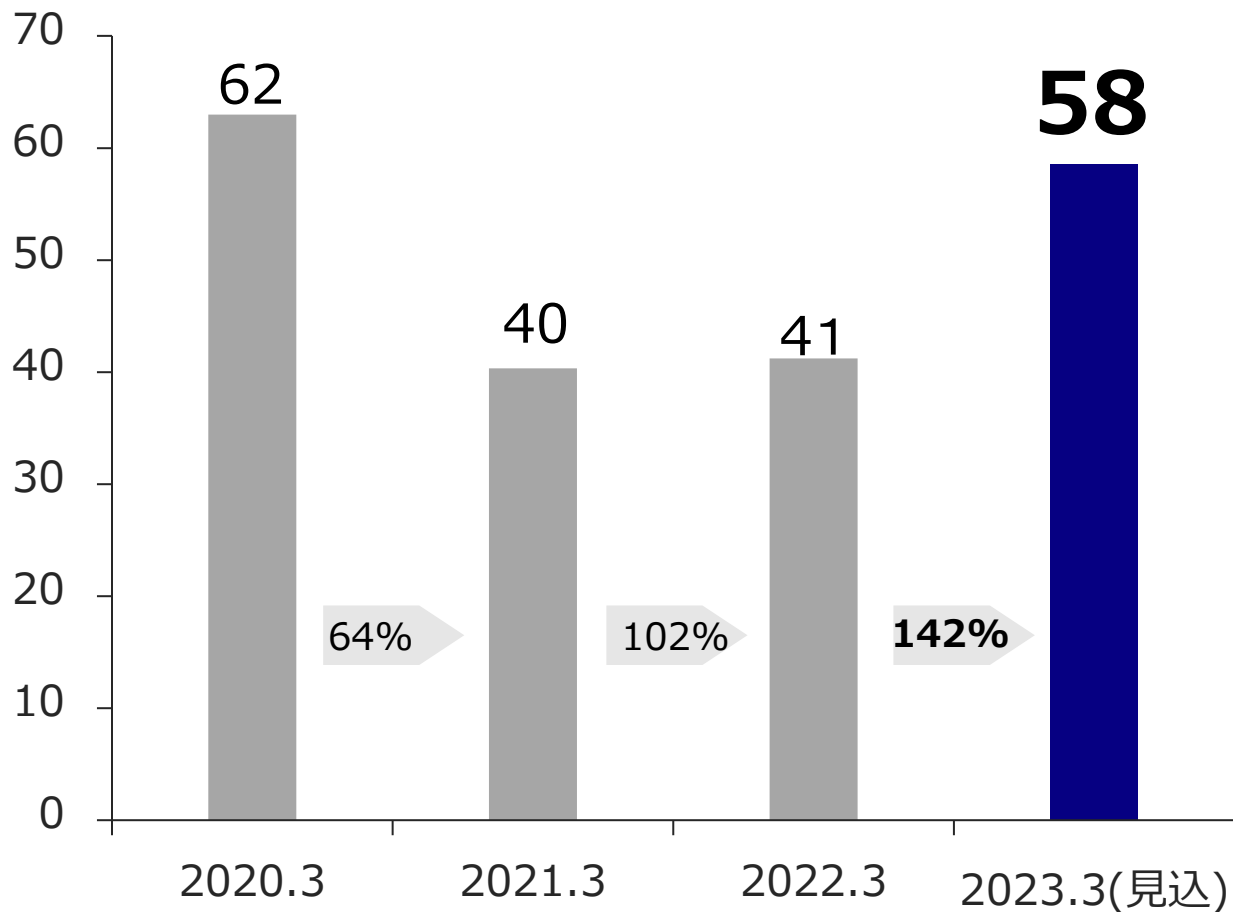
サービス販売 売上増の要因

- ・スーパーマーケットやコンビニ、ドラッグストア向けのメンテナンス、保守契約ともに増加
- ・業務用冷凍冷蔵庫のメンテナンスの需要回復
- ・トンネルフリーザーのメンテナンスが減少

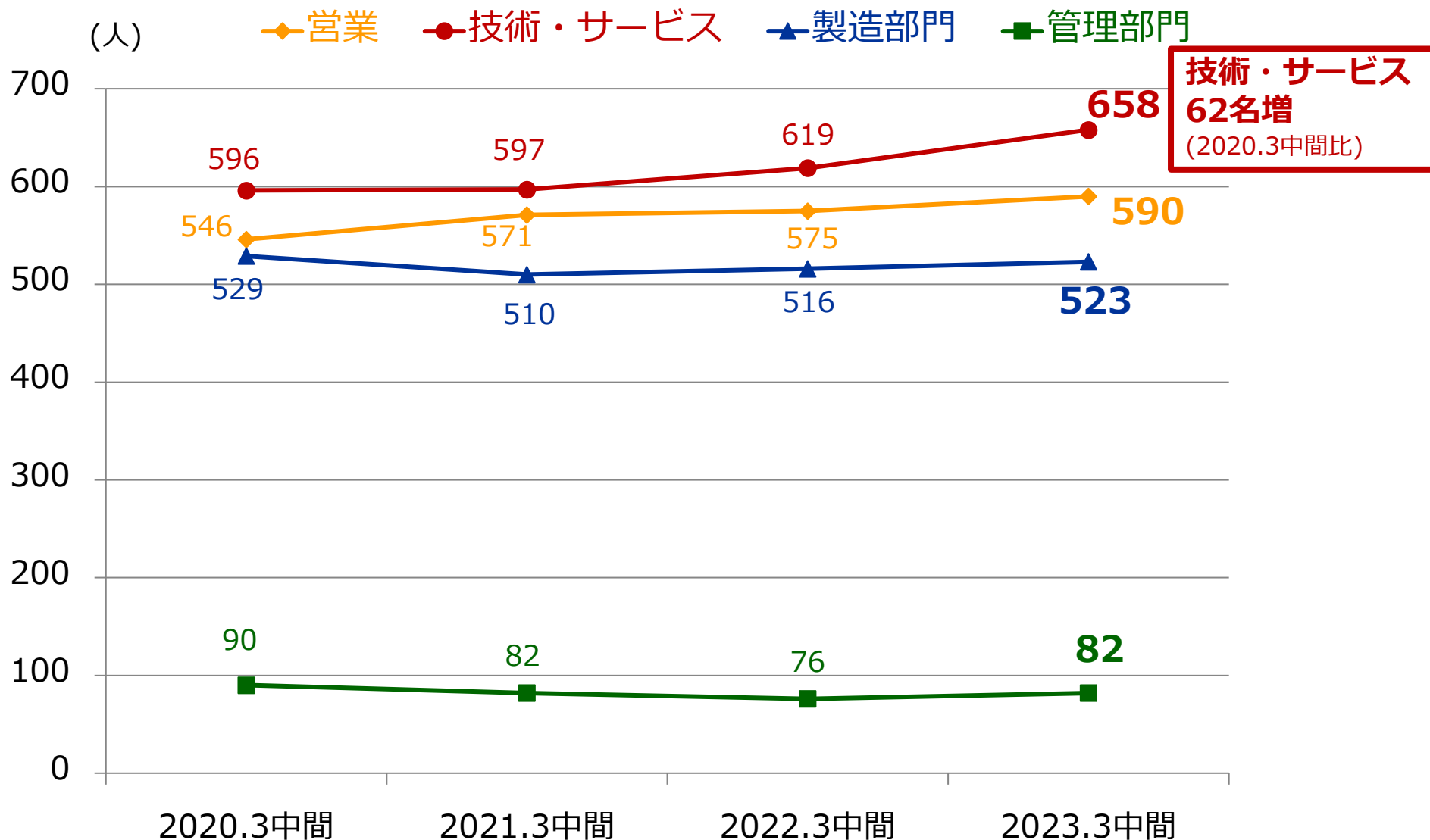
海外事業売上高推移

単純合算による売上推移

(億円)



部門別 人員推移表（単体）



**SUSTAINABLE
DIGITAL GLOBAL 人材**

SDG 人

Dramatic Future 2050

～誰もがワクワクする未来を拓く、ガリレイグループ～

私たちが目指すサステナビリティは、生産からテーブルに並ぶまで
温室効果ガスの排出を実質ゼロにすること。

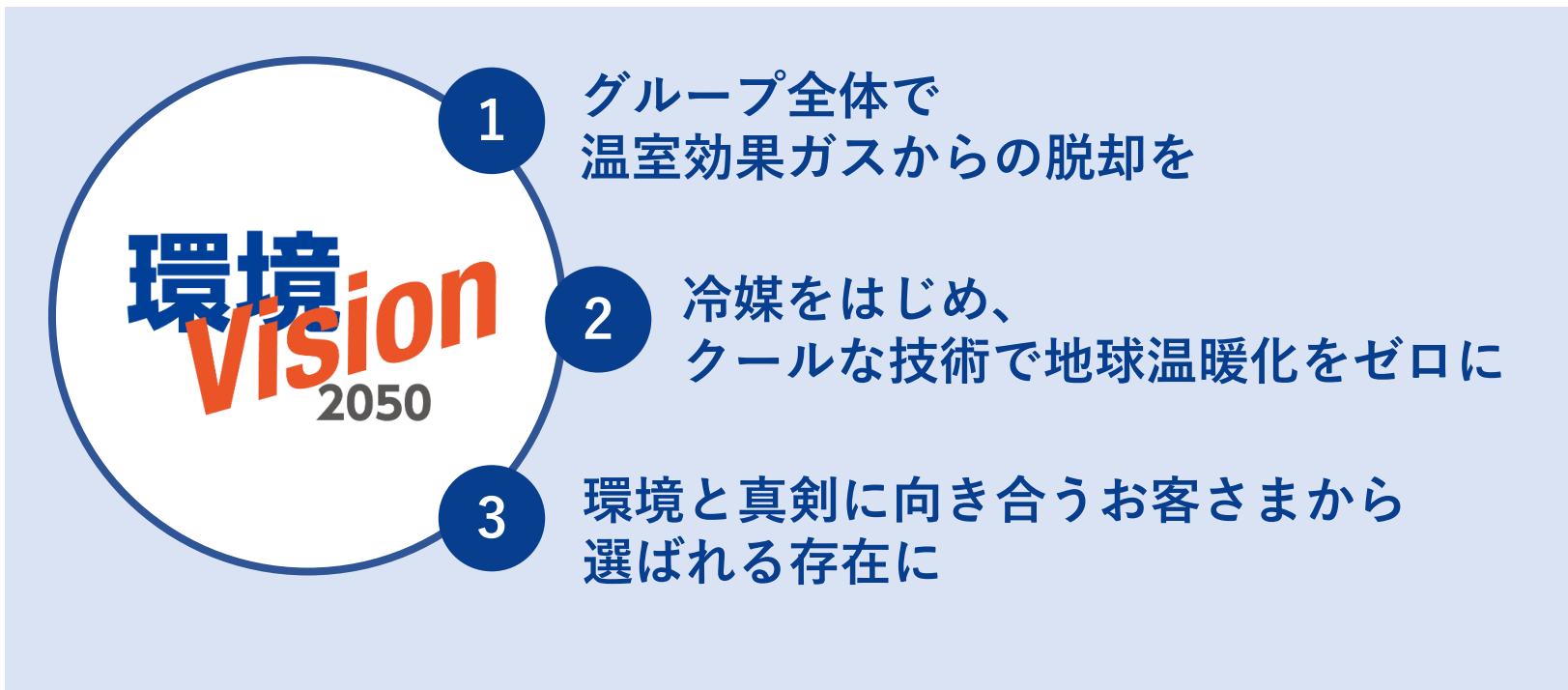
食といのちの未来のために、何があっても挑戦し続けます。

それが必ず、誰もがワクワクする未来を拓くと信じているからです。

サステナビリティの取り組み

環境ビジョン2050

持続可能な地球環境を次世代に引き渡すことを目的に、
2050年までの「**カーボンニュートラル・脱炭素社会の実現**」に向け、
「**環境ビジョン2050**」を掲げます。



サステナビリティの取り組み

環境アクション2030

ガリレイグループが目指す4つの「環境アクション2030」



1. グリーン冷媒
への転換

13 気候変動に
具体的な対策を



環境
Action
2030

3. 環境性能の高い
製品を開発・提供



2. 冷媒ガス
漏洩防止

4. CO2排出量削減



S : サステナビリティの取り組み



グリーン冷媒への転換

2025年の新規製品・新規設備へ使用する冷媒はグリーン冷媒（低GWP冷媒、ノンフロン冷媒）への転換を通じ、温室効果ガス低減に取り組み、地球温暖化防止に貢献します。

2025年中間目標

冷凍機内蔵製品

加重平均
GWP500以下
を目指す

冷凍機別置製品及び工事

加重平均
GWP1500以下
を目指す

お客様製品・設備

フロン冷媒が封入されている
環境負荷の高い製品の
切換を推進

※冷媒の温暖化係数はGWP加重平均を示します。

冷凍機内蔵製品



冷凍機別置製品及び工事



S : サステナビリティの取り組み

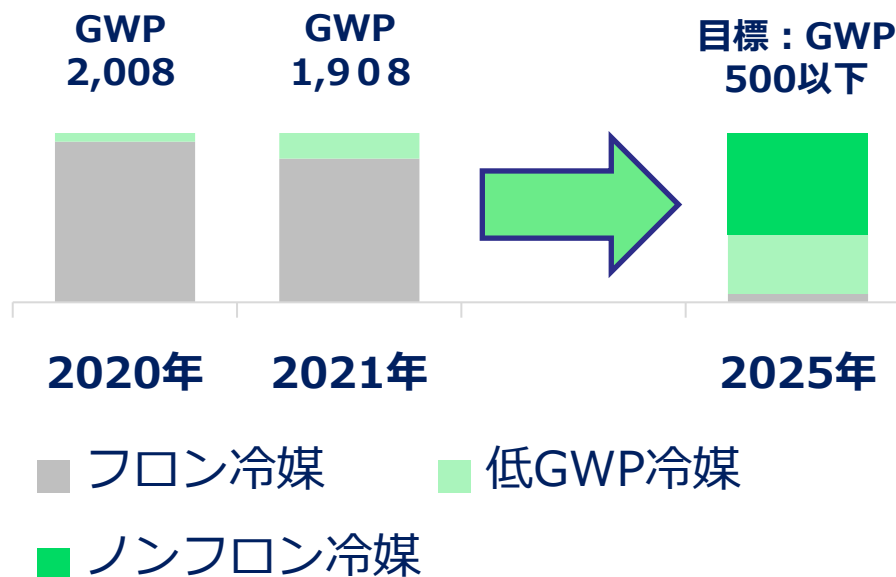


グリーン冷媒への転換

冷凍機内蔵型製品



モデルチェンジにより
低GWP冷媒機種へ
切替進む

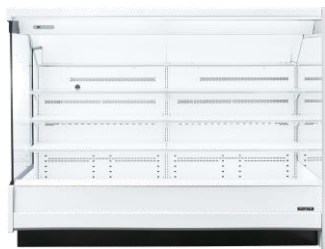


S : サステナビリティの取り組み

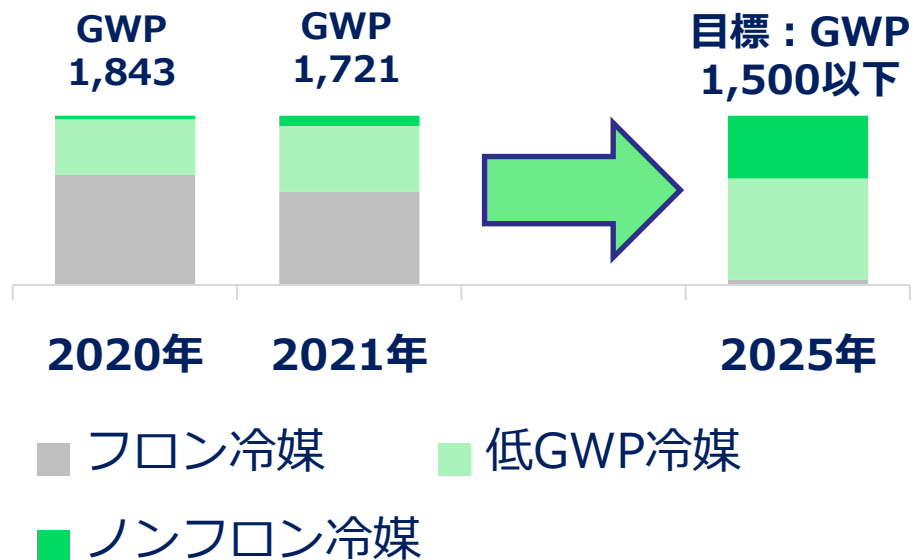


グリーン冷媒への転換

冷凍機別置型製品及び工事



低GWP冷媒冷凍機、
CO2冷凍機案件増加



NOBRAC ノブラック



NOBRAC

CARBON（カーボン）の逆読み CO₂増加の流れを逆転させる

FOOMA JAPAN 2022
会場にて正式にリリース発表



フクシマガリレイ



新CO₂ユニットをアピールする福島専務

り組み、安全・安心でメンテナンスフリーな冷凍機として提案する。

トンネルフリーザー専用のユニットを3機種、冷凍冷蔵庫車庫用冷凍機として冷凍を2機種、冷凍を3機種揃える。

6月7〜10日に東京ビッグサイトで開催された「FOOMA JAPAN 2022」で同ユニットを初披露し、来場者にア

ビール。また、7日には同所で発表会を開催した。6月27日付で社長就任が内定している福島豪務専務取締役は、「トヨレフリーザーを扱う食品メーカーや、冷凍冷蔵倉庫を業としてしている企業の方々は環境に対する意識が高く、自然の恩恵の大きさに気づいてくれていると感じている。新たなCO₂ユニットの普及により、カーボンニュートラルの世界の実現に大きく貢献していきたい」と強調した。

同社グループは2050年のカーボンニュートラルの実現に向けて取り組みを強化しており、製造メーカーとしてユーザーのCO₂削減が重要と考えている。また、グリーン冷媒としてCO₂冷媒への転換も推進。今期はグループ全体でCO₂設備を500物件に納入することを目標としている。

同社は冷凍冷蔵機器のフロン問題を解決するため、CO₂ユニットを開発。食のインフラを支えるグループの使命として、持続可能なフードサプライチェーンの提供を進めていく考えだ。

S : サステナビリティの取り組み



冷媒ガス漏洩防止

2025年度製品・施工物件より冷媒漏洩による地球温暖化ゼロを目指します。

また、プレメンテナンスの拡充により、冷媒漏れ10年保証を目指します。

2020年

冷媒漏洩量

50,000t

2035年

冷媒漏洩量

ゼロ

2035年までに
冷媒漏洩量ゼロを目指す

2020年における冷媒漏洩量50,000t(10年以内の製品・施工物件:CO₂換算実績)に対して、2035年には10年以内の製品・施工物件の冷媒漏洩量ゼロを目指します。

※10年以内の製品・施工物件の冷媒漏洩量(CO₂換算)

冷凍機内蔵製品

2025年度製造製品から
冷媒漏れ10年保証



冷凍機別置製品及び工事

保守契約による
冷媒漏れ10年保証



具体的な取り組み

製造時の対策

- 溶接レス又は溶接点数の削減
- 検査新技術の導入
- 材料劣化防止対策の拡充

施工時の対策

- 工事のDX活用

保守時の対策

- DX活用による予防保全

「直す」から『止めない』に
スタイルチェンジ

S : サステナビリティの取り組み



冷媒ガス漏洩防止

製造及び施工後10年以内のガスリーク発生状況(有償・無償合計)

	2021年10月1日～2022年9月30日			
	冷媒漏洩件数 (件)	冷媒漏洩量 (kg)	CO2換算 排出量 (t-CO2)	発生率 (%)
岡山製品	1,520	440	1,372	0.18
滋賀製品	504	4,413	13,557	0.14
(別置型)	287	4,197	12,857	0.11
(内蔵型)	217	216	700	0.23
クーリングコイル	175	1,323	3,466	0.39
冷凍機(ACT)	25	90	256	0.16
冷凍機(日立・三菱)	343	6,387	17,715	0.75
工事関係	357	7,130	19,845	0.10
トンネルフリーザー	20	1,537	3,672	1.35
合計	2,944	21,319	59,884	0.23

3項目合計

≡別置型ショーケース・プレハブ工事

全体の**84%**以上を占めている

協力業者さんとの**連携**が不可欠

S : サステナビリティの取り組み



環境性能の高い製品を開発・提供

製品のライフサイクルにおいて環境性能の高い製品を提供しCO₂削減に取り組み、より環境負荷の少ない製品へ移行します。

評価実施

2022年
LCA評価への
取り組み

岡山工場・滋賀(水口)工場から評価を実施する

評価の公表

2023年以降
主要機種のLCAを用いた
評価を公表

教育体制を確立するグループ会社への横展開

環境配慮製品へ移行

LCA評価より
環境負荷の
少ない製品へ移行

環境調和型製品の開発に結び付ける

LCA (Life Cycle Assessment)

＝ 原料採掘から製品使用、廃棄まで全ての工程で排出されるCO₂の合計を数値化

環境負荷の少ない製品への移行

別置型ショーケース冷凍多段の廃止

- ・エネルギー効率が悪い
- ・修理が多い



リーチインタイプに
変更すると
約49%の省エネ



一定速機種をインバーター機種へ集約

- ・エネルギー効率が悪い
- ・インバーター機種との
ダブルスタンダードを改善



1400kWh/年

LCC-151PM
現行一定速

省エネ率
約27%

1020kWh/年

LRC-151PM
現行インバーター

S : サステナビリティの取り組み

環境に配慮した製品への移行として
一定速機種を2023年3月末日で生産終了

The Galileiシリーズの インバーター制御は省エネで とってもお得！

インバーター制御機種は電気代の削減やCO2排出量の削減に貢献

インバーター技術による省エネ

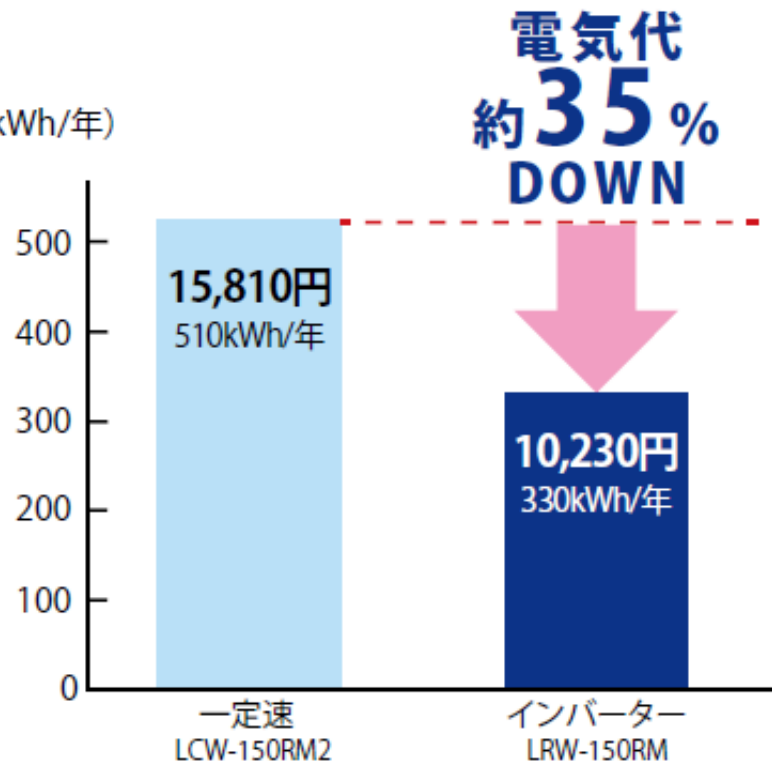
当社独自のインバーター制御技術により、
最適な運転を行い、大きく省エネを実現しました。



冷蔵庫 LRW-150RM

2016年度省エネ基準達成率189%

(kWh/年)



S : サステナビリティの取り組み



CO₂排出量削減

グループ全体で2030年までにCO₂排出量50%削減(2013年度比)を目指します。

- 改善活動による生産性向上
- 再生可能エネルギーの積極的な導入



岡山第二工場

- グリーンエネルギーの導入検討
- 再エネ100%宣言ReAction(JCLP) 参画

再エネ100宣言
RE Action

- 省エネルギー活動の推進
- HV車、EV車の積極的な導入



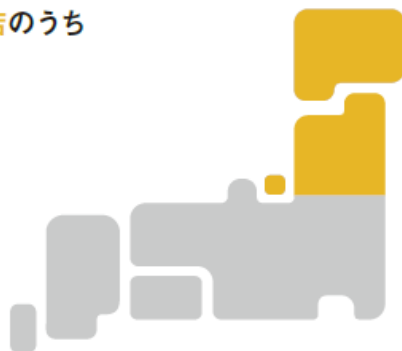
お客様との協働により、エネマネ事業、ZEB化の推進を通して、バリューチェーン全体のCO₂排出量削減に取り組めます。

全国のスーパーマーケット22,500店のうち
約30%が当社製ショーケースを使用

年間223万トンのCO₂排出量に相当

46%削減 に向かって取り組みます

※日本政府のCO₂排出量削減目標に
歩調を合わせて取り組みを推進



Bems-you

建物のエネルギーマネジメントシステム



Galilei Air-tec System

ガリレイエアテックシステム

食品スーパーの店内環境最適化



ZEB2019L-00033-P

お客様の
ZEB化推進

S : サステナビリティの取り組み



CO₂排出量削減

ガリレイグループCO₂排出量

(t-CO₂)

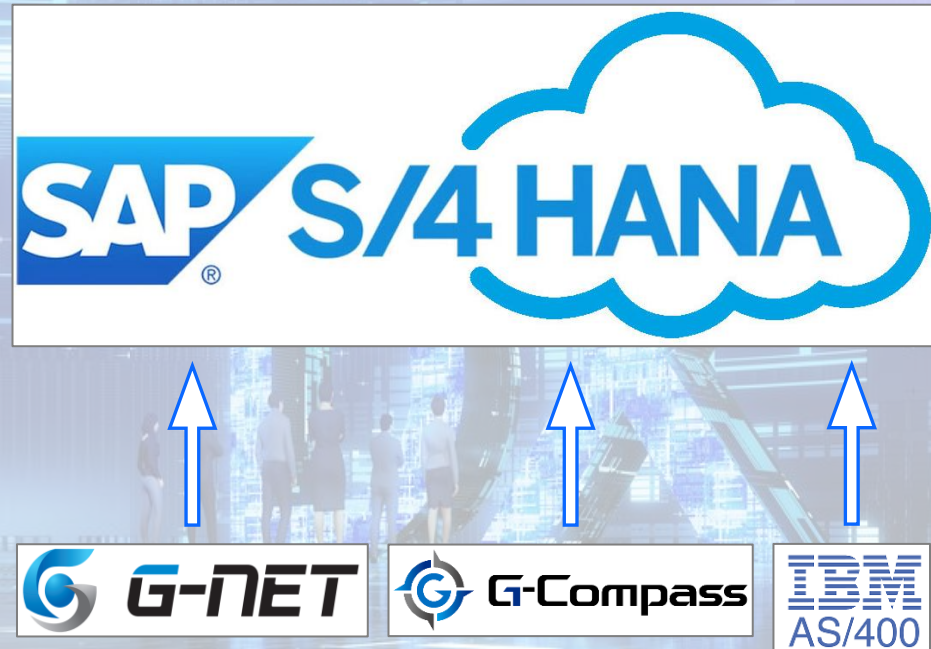
会社名	2013年度	2020年度	2021年度	2030年度目標値
岡山工場	3,823.0	1,814.0	1,791.0	464.0
滋賀水口工場	2,975.2	1,850.0	1,862.0	1,451.9
フクシマ各営業所	3,470.0	4,921.0	4,916.0	2,543.0
GPC	1,862.5	1,246.6	1,349.0	1,006.1
タカハシ	394.5	107.1	133.8	100.0
ショウケン	60.1	61.8	107.9	100.0
タイ工場	37.8	37.8	181.0	1,070.0
北京工場	845.7	247.7	—	—
合計	13,468.6	10,286.0	10,340.8	6,734.0
2013年度比		23.7%減	23.2%減	50.0%減

基幹システム刷新 SAPプロジェクト

■30年ぶりとなる基幹システムの刷新

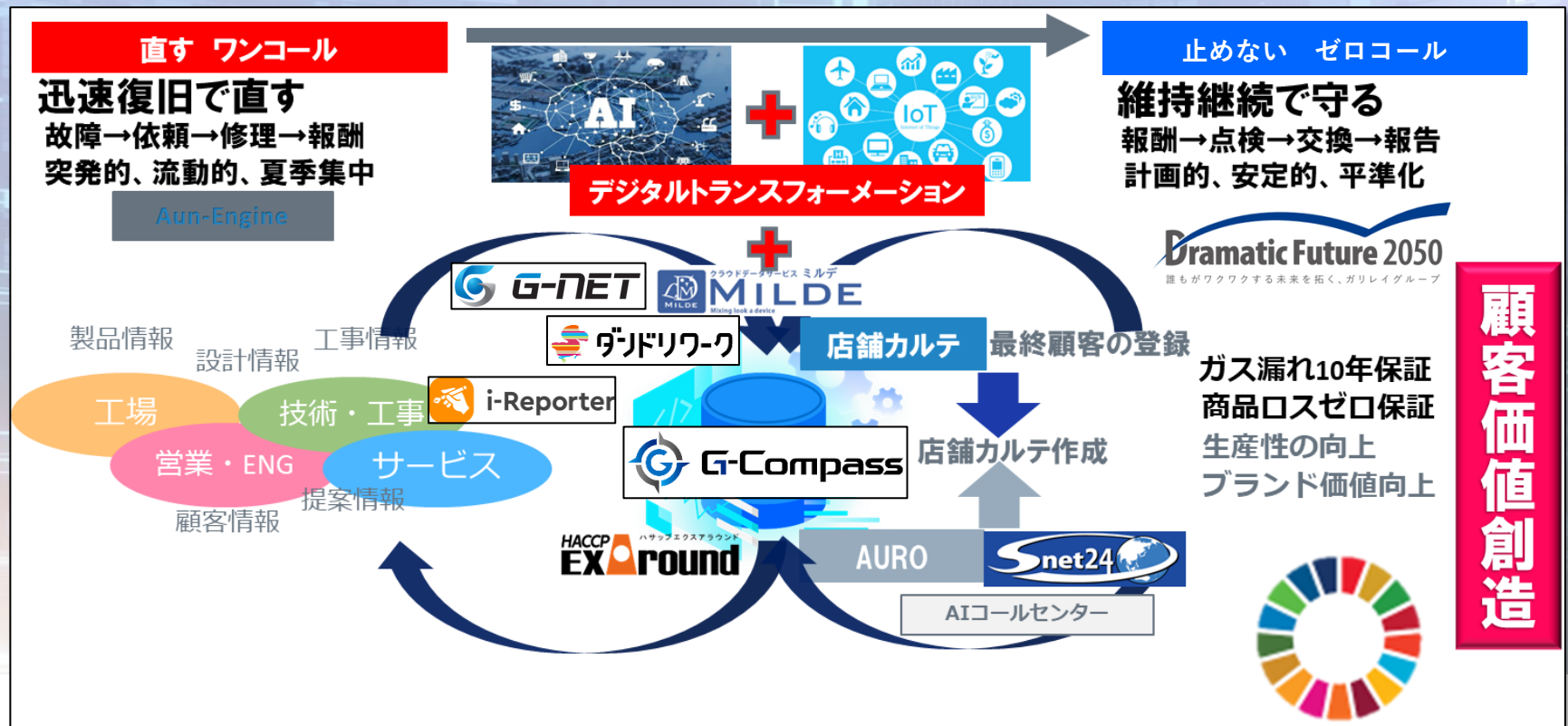
守りのDXとして要となるERP（総合データ基盤）として、グローバルNo.1のシェアを持つSAPを導入。
今期11月よりリリース開始！

全ての業務システムの情報がSAPに集約され、
部分最適から全体最適を進め、一気通貫のデータ
基盤を構築。



D : デジタルの取り組み

ZCC ゼロコールカンパニー



D : デジタルの取り組み

ECサイトの立ち上げ



■ 読み：アスフード
食のゆたかさの未来を拓く思いを込めた名称

■ S D G s 特化型レンタル

- ・ 途中解約機器をこども食堂等へ寄贈
- ・ レンタル料の一部を寄付
- ・ 持続可能な消費形態（フルメンテ付き）
- ・ 省エネルギー機器を重点的にラインナップ

サイトイメージ（参考）



G : グローバルの取り組み

グローバル化への挑戦

タイ工場製品ラインナップ拡充・拡販

ローカル化

現地社員の育成、幹部候補化

グローバル調達

供給網の拡大

設備投資強化



人：人材を育成し、挑戦できる風土を作っていく



2022年5月

ガリレイアカデミー開校

- ・ 1.5カ月間の教育プログラム
- ・ 若年層の早期活躍支援

現在3期生までで
計31人卒業！
各部署で活躍中！

教育体制の充実により
技術・ブランド・採用力強化

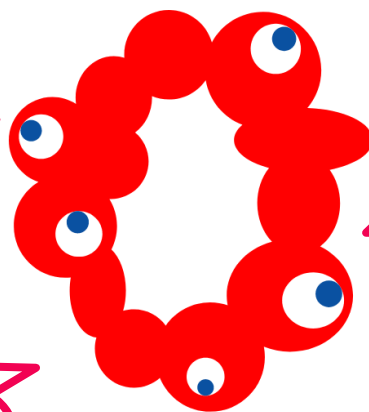


2025年 大阪・関西万博 協賛決定！

メインテーマ：いのち輝く未来社会のデザイン

開催期間
2025年4月13日
～10月13日

開催場所
大阪 夢洲(ゆめしま)



OSAKA, KANSAI, JAPAN

EXPO
2025

コンセプト
People's Living Lab
(未来社会の実験場)

想定来場者数
約2,820万人

大阪・関西万博 メインテーマ
いのち輝く未来社会のデザイン

テーマ事業名称
いのちの輝きプロジェクト

プロデューサー 小山薫堂 様

いのちをつむぐ EARTH MART Sustainable Dining & Groceries



フクシマガリレイのPurpose
食といのちの未来を拓く

コンセプト

「食」と「いのち」にまつわる当たり前をリセットし ひとりひとりの行動を変えるヒントにあふれた 〈空想のスーパーマーケット〉



食の豊かさの象徴であり、一方で、食の価値やその代償を忘れがちになってしまう
「スーパーマーケット」という最も身近な空間をモチーフに。

テクノロジー進化の延長線にある未来でもなく、完全なSFでもない。
わたしたちが当たり前だと思っている様々な事をリセットし、
々の食べかた・選びかた・生きかたをアシストする「第三のスーパーマーケット」をつくります。

買い物感覚でワクワクしながら、
さまざまな情報や体験、学び、気づきから、
新しい食べかたの行動のきっかけとなる場を創造します。

コンセプト

Zone-1
地球産の売場

EARTH MARTが 提案する生鮮食品売り場

農産物・畜産物・水産物ではなく、
野菜売場、肉売場、魚売場でもなく、

「地球産の売場」

必要以上にいのちを生贄にしないように
しあわせの糧を不幸せにしないように

自然とテクノロジー、畜産・農産・水産が
互いに重なり合いながら存在し
細かなインタラクションを散りばめてゆく。



Zone-6
多様性の売場



国内外の各地域や人々が考える
地球と皆のためのお弁当

地域による食文化の違い、宗教の違い、アレルギー問題や個人の主義の違い・・・食の嗜好性と選択は多様化しています。そんな多様性を「お弁当」というフォーマットでインクルージョンする事によって価値観を超えて食の素晴らしさをメッセージします。

Zone-3
記憶の売場



20XX年の晩餐会

未来の世界のリーダーたちが参加する架空の晩餐会を想定して現在のシェフたちが腕をふるった料理の数々をその空間ごとアートとして「冷凍保存」する。

2025年のシェフたちは、未来に何を託すのか？
20XX年の人たちは、過去から何を味わうのか？

ホログラムによってシェフたちのメッセージを伝したり、作られたレシピをデジタルアーカイブする事で実際に未来に再現されることを目指します。

また、冷凍することで新しい価値が生まれるアイデアを様々なディスプレイ。

Zone-5
幸福の売場



EAT FOR HAPPINESS 幸せを味わう食

食べることで結果的に「幸福感」を得るのではなく「幸福になるために食べる」のは人間らしいかもしれません。

食を創作することの幸福。食をシェアすることの幸福。おやつやデザートのように、平和と平和を味わう幸福。お菓子売場をモチーフに大人も子供もワクワクする体験展示を散りばめます



GALILEI

Be cool, Be alive.

フクシマガリレイ株式会社 総務部経営企画課

TEL : 06-6477-2011

当資料に記載されている当社の計画、見通し、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しです。これらは、掲載時点で入手可能な情報から得られた当社経営陣の判断に基づいています。

実際の業績はリスクや不確定要素の変動および経済情勢等の変化により、見通しと大きく異なる可能性があることをご承知おきください。